

| | |
|------------------|---|
| Title | 元寇史料集(國民精神文化研究所印行) |
| Sub Title | |
| Author | 有賀, 春雄(Ariga, Haruo) |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1935 |
| Jtitle | 史学 Vol.14, No.3 (1935. 12) ,p.169(535)- 169(535) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 書評 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19351200-0169 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

つたとしても（ある思想が精確にある時代に至つて初めて現れたか、それ以前から存在したかは非常に証明に困難な問題ではあるが）それは史記以後の潤色によるものであるかも知れず、少くとも左傳の稿本とも云ふべきものは、史記以前に存在して、却て史記に材料を與へたものではあるまいか。かく解すれば、著者が後世の補入とされた史記十二諸侯年表の序中の語なども、抹殺する必要はないのであり、著者は自説を證する爲、尙多くの竄入を多くのテキストの中に指摘されてゐるのであるが、かくの如きは著者の論ぜられる漢儒の恣意な態度が、著者にまで依憑したのではないかと、やゝもすれば讀者をして不安を感じしめる憾もある。春秋に對する見解も、あれだけの論述では、前述の結論に導く必然性もないやうである。

以上かくの如き勞作に對して、あまりに禮を失した形であるが、多くの示唆と啓發とに富むこの大著が、爾後の左傳研究者に對し、如何に與ふるもの多く、且つ大なるかは、今更喋々するまでもないことである。（索引及び英文梗概付、定價七圓）（杉本忠）

元寇史料集（國民精神文化） （研究所印行）

元寇史料は國民精神文化文獻（二）として印行されたもので、貴重な元寇史料を複製して二卷の巻物に收め、讀者をして直接原形に就いて研究し得るの便を與へたものである。別に附せられた元寇史料集解説は、本史料集閱讀上の指針である。

内容の第一は宏覺禪師祈願開白文（京都正傳寺所藏）であつて、

書 評

これに於ては宏覺禪師その人の敵國降服を祈願する切々たる愛國心が窺はれ得る。第二の北山室地頭尼眞阿請文（石清水八幡宮司田中俊清氏所藏）に於ては、北山室の地頭職たる眞阿がその子や聿を激勵して外寇防禦に馳せ参ぜしめた悲壯な意氣や、井芹秀重が自ら歩行し得ざる八十五歳の老齡でありながら、六十五歳の嫡子以下を馳せ向はしめんとした決心など、當時の國民が男女老幼の別なく國難に當るの頼もしい精神を知ることが出来る。終の壬生官務家日記抄（京都帝國大學所藏）は弘安四年當時の日記であつて、その筆者は明らかでないが、これによつて當時異國降服御祈願のための二十二社奉幣、龜山上皇の石清水御幸、御參籠、公卿勅使の伊勢神宮御差遣、八陵に異國降伏御祈願の宸筆を籠め奉られし畏き御事蹟、軍勢召集兵糧米徵收のための幕府の奮勵などが窺はれ、舉國一致を以て國難に處した尊い精神を傳へるものである。かゝる古文書の普及によつて、日本固有の麗はしい精神を現代の國民に傳へんとするは、眞に時宜を得た企圖といふべきである。（有賀春雄）

勤王志士 贈從四位飯田忠彦小傳（武田勝藏著） 野史編者

有栖川宮家に勤仕し、勤王の志士として知られ、特に野史二百九十一卷の編纂を以て讃へられてゐる幕末の史家飯田忠彦の生涯と、その野史編纂の苦心とを敘したものであつて、著者は廣く忠彦關係の史料を調査せられ、多くの興味ある史料をそのまゝ掲げて平易なる説明を施し、容易に忠彦の偉大な業績を知らしめんと

（三五五）

一六九